

平成24年9月6日

1093

(決算書も武器にする)

日創研茨城経営研究会で「BS経営のススメ」という本を著している
UBI(株)取締役会長の木村勝男氏の講演を聞きました。翌日の企
業訪問の同行もさせて頂きました。バブル期に色んなビジネス
に手を出しバブルが弾け数億の借金を背負いそこから這い上
がった経営者です。会計数値も損益計算書から見子のではな
い貸借対照表を見る。損益計算書は単年度の数字であり貸
借対照表は創業から今までの歴史である。貸借対照表
中心に特に自己資本額を高めていく。自己資本額を高めるた
めには何をい(か、経営とは変化対応策である。自社を取り
囲む環境は変化しています。ライバルもいます。そのなかで、利益を出し
自己資本額を高めなければなりません。自己資本額を高め
るのは、短期戦ではなく長期戦です。経営は波があります。10年
先の自己資本額を決め行動する。自己資本額の源泉は利益です。
木村勝男氏は自己資本額を高めることが目的ですので、節税はしな
いことです。会計事務所の商品は節税提案ですので、売子
の減税していきませうが。私は、木村氏から、一人当たり1,000万円、社
員数16名ですので、 $1,000万円 \times 16人 = 1.6億$ を上げて2億円
を目標としてアドバイスを受けてました。2億円にすることにより、
多くのビジネスチャンスが生まれる。経験を積むことで、新しい
事業転換ができるこの教えを頂きました。私自身公私混同なし
経営数字はオープン、自己資本比率が40%超にたつまで
100万円以上の固定資産は持たないと決めていました。新たに
自己資本額10年後2億円を掲げます。決算書も武器になる
このことです。

真林素裕